

Choho

長崎大学広報誌
[チョーホー]

長崎大学

NAGASAKI UNIVERSITY

ISSN 1347-7994

Winter

Vol.

46

Choho

長崎大学広報誌 [チョーホー]

Vol.46

長崎大学ホームページ <http://www.nagasaki-u.ac.jp/>

特集
地域で活かされる
長崎大学の「知」
長崎大学の地域貢献を考える



学びの 森の 風景

Scene 8



長崎大学のキャンパスには、原爆被爆者の慰霊のためのモニュメントのほか、被爆した樹木も何本かあります。文教キャンパス教育学部棟そばにある「被爆柿の木二世」もそのひとつ。多様な生物や植物が生きるビオトープの一面に凜として立っているその姿は、学部棟のドアを開けるとすぐに目に飛び込んできます。このほか、環境科学部の中庭には「被爆三世ザクロの木」、そして大学病院には「被爆したクスノキ」が。平和を祈念する樹木として、また被爆の生き証人として、キャンパスの学生たちを見守っているのです。

撮影 / 沖田夏樹(経済学部 職員)



学長室
だより

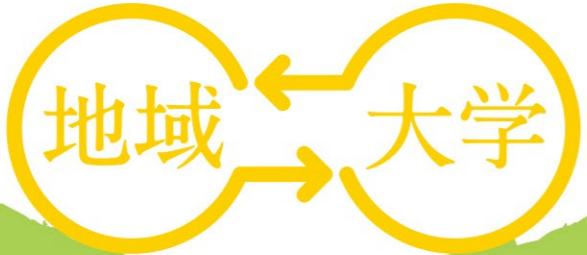
大学と地域

特集

地域で活かされる 長崎大学の「知」

長崎大学の地域貢献を考える

「地域にとって、なくてはならない大学とは？」
長崎大学は、常にその問いに対する答えを探しながら
これまでも積極的に地域に貢献してきました。
そして、それは単なる貢献では終わらず、
大学の学びにフィードバックするという
より質の高い循環をもたらしています。



長崎大学は、年間予算規模550億円、学生数9100名、教職員数2900名の一大組織体です。教職員の家族を含めると長崎大学関係者は約2万人、長崎市の人口の約5%を占める計算になります。自ずから、地域に大きな影響力を有する存在なのです。

現在、我が国の人口は減少に転じ、急速な高齢化が進行しています。長崎県においてその傾向は顕著で、地域の活性化の阻害要因ともなっています。その意味では、18歳から20歳代半ばの学生集団1万人の存在は貴重です。成熟前の柔軟性に富む感性と破天荒なアイデア、そして無尽蔵の行動力を有する学生たちが、地域活性化の大きな力になることは間違いありません。

研究成果を地域に還元することも大学の重要な地域貢献です。構造的経済不況、エネルギー・食糧問題、環境破壊、感染症など現代の地球規模課題の影

響は、国内では地方において顕著にあらわれます。地方大学として世界と人類に貢献する新しい価値観の創造にまい進しなければならない所以です。長崎大学は地域に根ざし、地域との連携を通して、世界に個性の光を放つ大学であり続けたいと思います。



そのためにも、地域の皆様とつながることのできる絆を、一つでも多く作りたと思います。すっかり長崎の秋冬の恒例行事となった「長崎大学リレー講座」、客席数100の小音楽ホール「長崎創楽堂」や、地域のシンクタンクとしての「核兵器廃絶研究センター」は、そのような絆としての役割を確実に果たし始めています。

人口の減少は地域が最優先で取り組むべき最重要の課題です。そのカギは、若者が目を輝かせて働き、活動できる環境の創生にあります。地域における大学の役割はとてつもなく大きいのです。

長崎大学長 片峰 茂

CONTENTS

長崎大学広報誌
[チョーホー]
Choho Vol.46

本誌記事を長崎大学関係者が転載する場合は、「長崎大学広報誌Choho vol.〇から」と明記してください。学外の方は、事前に広報戦略本部までご連絡願います。

学長室だより	大学と地域	1	表紙のはなし
特集	地域で活かされる長崎大学の「知」	2	片淵キャンパスは、長崎市の登録文化財にもなっている瓊林会館をはじめ、煉瓦倉庫や石造りのアーチ橋があるクラシックで美しい風景が自慢です。今回のモデルは2013年長大祭でミスキャンパスに選ばれた中川亜梨沙さん。朝から冬の雨が降り続いていたのですが、一瞬雲の切れ間から顔を出した太陽が濡れた石畳を照らすラッキーな一枚となりました。
シリーズ	長崎大学のいま!「経済学部」	11	
TOPICS	グローバル教育・学生支援棟オープン	15	
TOPICS	多文化社会学部	17	
グラバー図譜	ヒメジ	19	
Information	入学試験情報、卒業式、入学式	21	
	長崎大学「通」クイズ	22	
	編集後記	22	

保存活用に合わせて 保全方法を複数提案

ここ数年、観光スポットとして脚光を浴びている端島（通称・軍艦島）。昨年九月にユネスコの世界遺産への推薦が決定した「明治日本の産業革命遺産」の一つとしても軍艦島が挙がっています。しかし、ここに来て、その保存と活用が報道で取り上げられて、注目を集めています。

この軍艦島の保存については、長崎大学工学部の研究者が八年前から調査してまいりました。平成十七年に長崎市が設置した「軍艦島保存活用技術検討委員会」に当初から関わっていたのが構造システム学専門の原田哲夫教授、松田浩教授、そして海岸工学専門の茅田彰秀教授です。委員会の副委員長を務めた原田先生にお聞きしました。

「そもそも、軍艦島が長崎市の管理下となった平成十八年当時、観光目的で有効活用しようというのが出発点でした。そこで護岸や建築物の基礎部分などのコンクリートの診断を行ったのです。長期間放置されたことで劣化も激しく、塩害などもみられ危険な部分もありました。保存活用との程度や範囲によって補修費用は違うので、六段階に分けて算出したのです」。

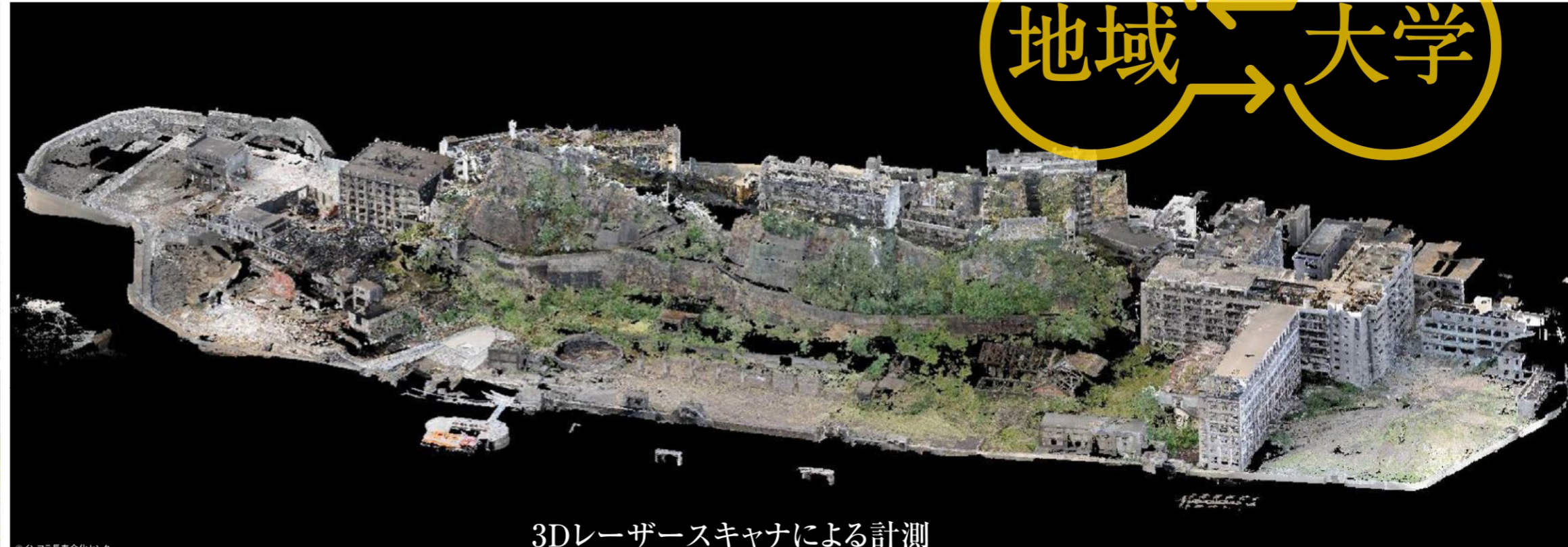
平成二十二年には松田先生が中心となったインフラ長寿命化センターでは最先端の三次元技術による計測を行いました。その一員として何度も軍艦島に上陸して調査した出水享技術職員のお話です。「建物はかなり老朽化しているため調査は危険を伴います。足場を組めば費用も膨大になる。そこで、3Dレーザースキャナの計測データや遠隔操作の出来る無人飛行機に搭載したデジタルカメラの地形画像から3Dモデルを構築しました。過去のデータと比較することで劣化の時間的な進み具合もわかるので、今後の保存や活用に有効利用できます」。

その間、よりよい保全のための新しい素材や機械も登場しました。原田先生いわく「建物ももちろん大切なのですが、人が上陸する場合、護岸をしっかりと保全するのが何より重要であると私は考えています。潮風に強く錆びないカーボン製の補強材と専用の定着具を使うなど、最新の工法が考えられます。軍艦島は注目度も高い特殊な例ですが、ここで活用されれば、この工法の良さがより認知され普及することが期待されます」とのこと。

明治のコンクリートは 貴重なサンプル

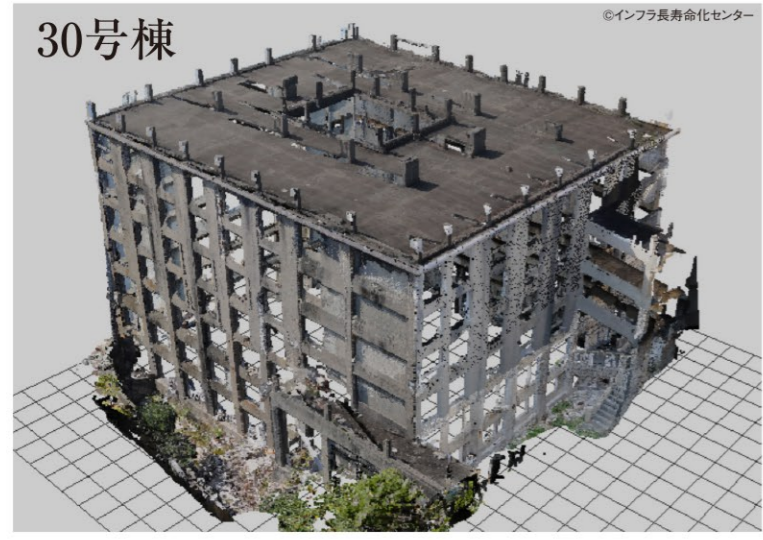
原田先生は一連の調査過程で面白いことに気づいたともいいます。「軍艦島には明治、大正、昭和のコンクリートがあります。コンクリートは素材や混ぜる割合、施工の仕方が大きく変わります。昨年も工学研究科の佐々木謙二助教が調査を行い、明治のコンクリートが高い強度と耐久性を持っていることを確認しました。軍艦島は「コンクリートの歴史博物館」と呼べる存在であり、今後の土木工学に活かせるサンプルとして、非常に貴重な研究対象なのです」。

世界遺産認定までの道のりのなかで、島を取り巻く状況は刻々と変化しています。長大も地元大学としての存在意義を示しつつ、長崎市に全面協力することになるでしょう。



3Dレーザースキャナによる計測

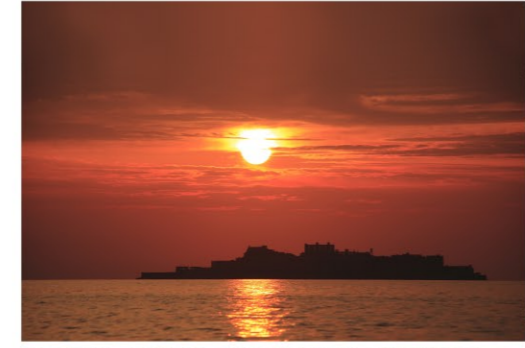
3Dレーザースキャナで計測して軍艦島を“まるごと”3Dモデルに。日々、風化・劣化が進行し形を変えている軍艦島を3Dデータとして記憶することは、軍艦島の保存のために重要です。3Dデータを活用することで、スマートフォンやパソコン上で自由に構内のバーチャル観光も可能になります。保存だけではなく観光に活用することを視野に入れた研究も行っています。



写真上／島の建物のなかでも30号棟は、大正時代に建てられた日本最古の鉄筋コンクリート造アパート。細かなひび割れまでわかる高精度の3Dモデルが完成しました。3Dデータから3Dプリンターを用いて30号棟の模型も製作。左下／デジタルカメラを載せた無人飛行機を飛ばすようす。右下／島に上陸して計測作業を行ったインフラ長寿命化センターのメンバー。夏は猛烈に暑く、冬は極寒というハードな作業だとか。3Dデータに関する問合せ・インフラ長寿命化センター ☎095-819-2880

1 長崎大学の 地域貢献

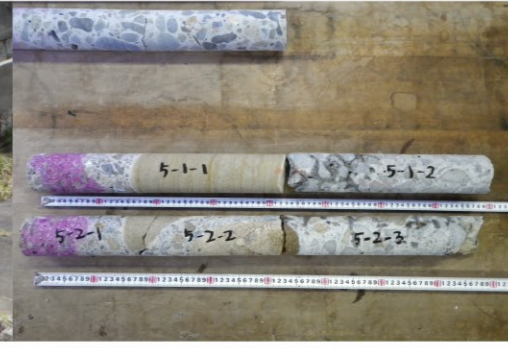
工学部は9年前から
軍艦島の
調査に参画



かつて日本一の人口密度を誇り海底炭鉱で栄えた軍艦島。1974年に閉山、保存のための補強を行い、2009年から上陸ツアーが始まりました。



長崎大学原田研究室と早稲田大学や建設会社のグループと共同でコンクリートの調査をしているようす。



佐々木先生が調査した軍艦島の110年ほど前の護岸コンクリート。薬剤でピンク色に染まるのは高いアルカリ性を表し、明治期のコンクリートの高い耐久性を証明しています。



工学部構造システム学専門の原田先生(右)と、調査を続ける佐々木先生(左)

文化財を保存する

地域からの 要請だけでなく 主体的に企画する スタイルに進化

ある時は小値賀島の子ども野外キャンプの手伝い。またある時は学習支援。学生たちは、いろんなボランティア活動に参加しています。「やってみゅーでスク」は、大学と地域が一緒になって学生を支援し、学生の豊かな人間性に基づく様々なスキル、例えばコミュニケーション能力、主体性、協調性などを向上させることを目的としています。なんでもやってみよう、という意味の長崎弁の「やってみゅーで」と「でスク」の造語が、やってみゅーでスクの名称の由来です。

担当の延田恵さんにお話を聞きました。

「地域では若者に手伝ってほしいとの要望がたくさんあります。自治会やイベント団体、行政などから『学生さんにこれを手伝ってほしい』と連絡があります。そこで私たちスタッフがガイドラインを基にお受けするかどうか判断。その後あらかじめ登録された学生に情報を提供します。そのなかで『やってみたい』と手を挙げた学生を紹介する、いわばマッチングが主な仕事です。特に東日本大震災以降、学生のボランティアに対する意識も変化して、積極的に社会の役に立ちたいという思いが強くなっているようです。」

ニーズと供給を「でスク」が間に入るこ

とでスムーズにつながっているんですね。これは文部科学省の特色ある大学教育支援プログラムで『学生が自ら育む人間関係力醸成プログラム』として平成十九年に始まり、平成二十三年度からは大学独自の事業として継続。現在、登録している学生は二〇〇〇名以上。地域団体も三〇〇以上が登録、今ではすっかり定着しました。

「最近では、ただ要請を待つだけでなく、こちらから積極的に自主企画を提案しようという学生さんやサークルなども出てきました。『でスク』では、このような学生の自発的な社会貢献の提案を、様々な形でサポートしていきたいと思っています」と延田さん。

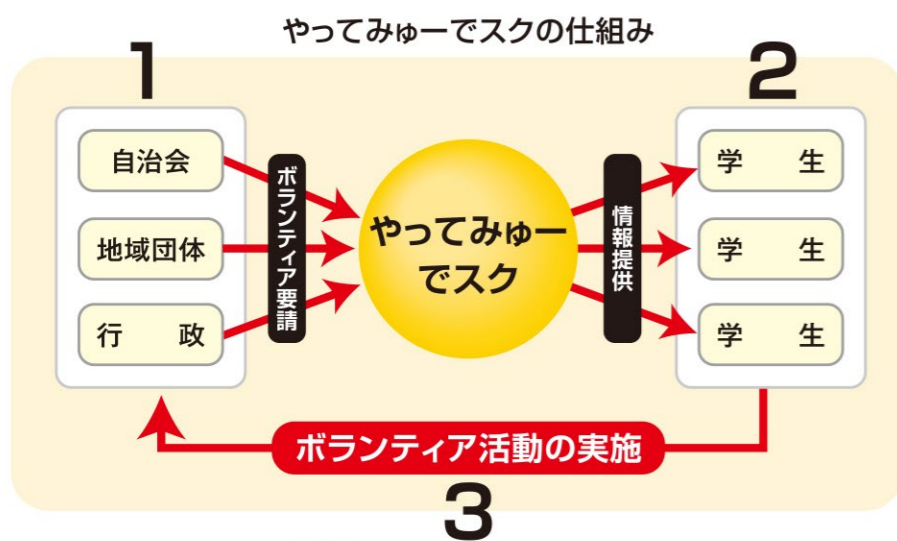
ちょうど、県が主催するながさき音楽祭「たのシツクフェスティバル」で、ロボットサークルが、子どものためのロボット体験を企画するというので取材しました。リーダーの中村亮太さんによれば、音楽イベントとの関連づけや、子どもが飽きないように説明の途中でもロボットを動かすなどの工夫をしたのだそうです。会場は大勢の子どもで賑わい、みんなロボットにすっかり夢中。一日で一五〇人の参加者が集まりました。

ボランティア活動による様々な分野での幅広い世代の人と交流した経験が、卒業後、社会人として活躍する自信へとつながればいいですね。



2 長崎大学の 地域貢献

祭りや施設のお手伝い、 「やってみゅーでスク」が マッチング



長大ロボットサークルによる体験イベントの様子。九州のロボットコンテストで入賞するほどの実力派のメンバーも、子ども相手にヒザを折って目線を揃えて一生懸命接していました。



スタートアップ説明会で附属図書館のサポーターについてのオリエンテーション。このような学内のボランティアも時折あります。



サポーターになると、自分の好きな本が購入できる選書ツアーにも参加でき楽しいですよ

図書館サポーターの工学部4年 結城卓也さん

学生主体の地域ボランティア

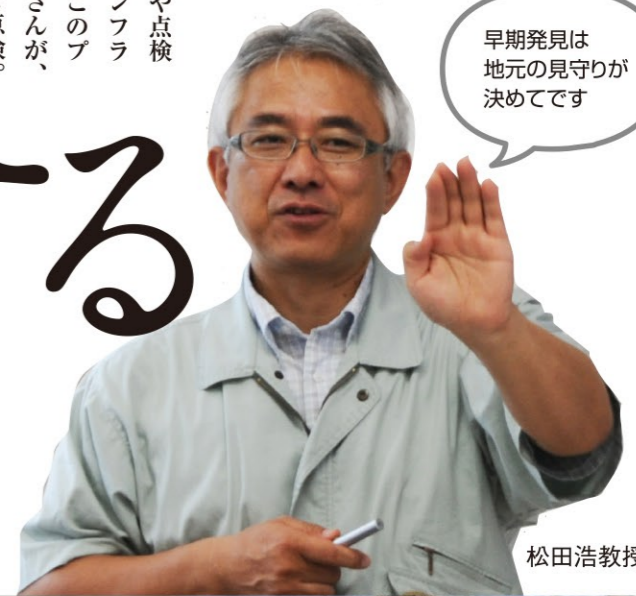
地域を 見守る目を 育て、増やす

長崎県は離島やへき地が多く、橋や道路、トンネルなどのインフラは劣化も激しく、補修に手間とお金がかかります。そこで長崎大学では、平成十九年にインフラ長寿命化センターを設立しました。その目玉事業として、一般の方を対象に道路の維持管理や点検のための基礎知識を教え、地域のインフラを見守る「道守」養成があります。このプロジェクト、養成された道守のみならず、日々の生活のなかで道路インフラを点検、ひび割れや陥没など問題のある箇所を発見したら、チェックシートに記入してセンターに提出します。センターではその問題箇所を国、県、市などの管理者に通報して速やかに補修し、その結果をフィードバックするという一連の流れになっています。センター長である松田浩教授は語ります。

「ごく最近まで、こういったインフラの維持管理は学問体系として存在していませんでした。行政まかせだったんですね。しかし、現実には県内のインフラすべてを行政が監視し、危機を未然に防ぐのは不可能に近い。そういったなかで、アメリカのミネアポリスの橋の事故や山梨の笹子トンネルの事故が起こり、これはいかん、やはり自分たちのまちは自分たちで守ろうという機運が盛り上がりました」。

なるほど、身近に暮らす住民による見守

早期発見は地元の見守りが決めてです



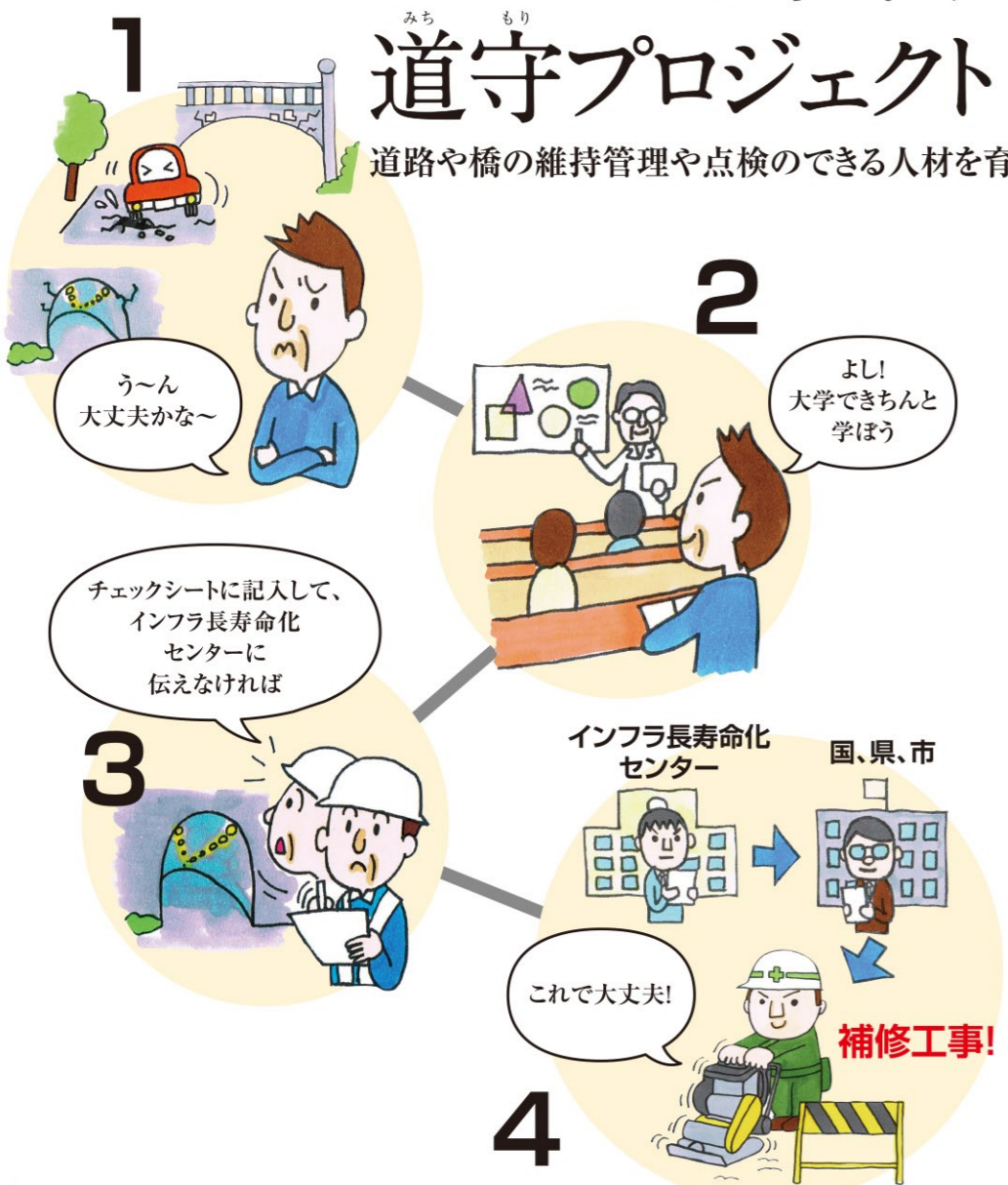
松田浩教授



危険を未然に防止する

インフラ長寿命化センターの道守プロジェクト

道路や橋の維持管理や点検のできる人材を育成



高校生も一役買っています。実際の橋の劣化が生きた教材となり、社会に役立つことも実感できます。

点検の実習をする受講者たち。橋を作るなど大きな工事は大手企業が請け負いますが、メンテナンスを地元が発注することで地域の活性化にもつながります。

3 長崎大学の地域貢献

新商品を 開発する

長崎大学の
地域貢献

4

これがシマアジの生ハム。
田脇水産のヒット商品。

問題を共有しながら 現場と大学が学び合う

東京のデパートのネット販売に登場した「シマアジの生ハム」。高級魚シマアジをゆずの香りで生ハム仕立てにした逸品は贈答用に大好評です。実はこの新商品の開発に長崎大学が大いに関わっていたのです。平成十九年から文部科学省の地域再生人材創出拠点の形成事業として、長大が県、NPOと共同して始めた「海洋サイバネティクスと長崎県の水産再生」（通称、サイバネ）は、水産関連で働く社会人を対象とした、いわば学び直しのプログラム。海洋サイバネティクスとは長大の造語で、環境科学や生物学、経済学、工学などさまざまな専門知識を学び、多分野の知識を使って、水産業の現場で起きている諸問題を解決したり、商品開発に役立てようというものです。立ち上げ当初から事業に関わってきた、水産・環境科学総合研究科の菅向志郎准教授にお聞きしました。

「年間五人〜二十人、自ら応募した方々なので、みなさんとても熱心です。二年間のプログラムは海洋環境や流通などの共通科目を学びながら、業種によって増養殖、漁業管理、水産食品のコースに分かれて講義実習を受講していきます」。プログラムに参加した田脇誠一さんは、前述のシマアジの生ハムを開発・発売した田脇水産の社長。「サイバネに参加するまでは養殖魚を市場に出しても、時には原価割れで出荷することもあり、水産業の将来に不安を感じていました。しかし、先生方の講義を聞いたことで、六次産業化に前向きに取り組むようになりました。養殖の水質の問題など、今も相談にのってもらっています」。菅先生いわく、「大学という社会人にとって敷居が高く感じられがちですが、我々の知識は使わなければ腐ってしまいます。どんな現場で活用してほしいですね。我々も今、どんな問題が現場で起きているか勉強になる。学び合いです」。

集中講義の日程は、なるべく参加者の負担にならないよう、大潮などの潮まわりをみて決めるという配慮も、現場主義の水産学部らしい気づかい。サイバネでは、このほかクエやマハタなど高級魚の養殖、魚のお茶漬けやわかめ麺といった加工品の開発などにも関わり、水産業の新しい動きが次々と起こり目が離せません。

大学の知見を 水産業の再生に活かす 「海洋サイバネティクス」



菅向志郎准教授



こちらは松園水産の「漁師まかない茶漬け」



お話を聞いた田脇さん(写真左)は、実は長大水産学部の卒業生。「在学中は単位ばかり気になっていましたが、今の方が逆に大学や先生方を身近に感じますよ」。プログラム修了後も継続して相談にのってもらえるのがありがたい、と。



昨年11月に行われた島原薬草フェアでは長崎大学もお手伝い。水屋敷や薬草園といった観光名所で薬草食やハーブ手浴など、薬草を利用した企画が市民に喜ばれていました。



テルやレストランを舞台に次々仕掛けていきます。本来、地域には、大学のリソースを使い倒すくらいの迫力や執念が求められています。我々もその期待に応えないといけない。最終的には大都市で経済効果を出せるところまでいきたいですね」と嶋野先生。

新しい商品が生まれるプロセスのなかで大学に求められているのは、専門知識と企画力、そしてコミュニケーション能力なのです。

島原市には江戸時代からの薬草園が今も約一ヘクタールほど残り、保存されています。長崎大学は文教キャンパスの薬草園以外にも、かつて野母崎や島原に薬草園をもっていました。そんな縁もあり、島原の薬草を活かして新しい食の名物を作ろうと動き出したのがこのプロジェクト。島原農業高校などで栽培された薬草を製造業者が加工し、麺やかまぼこなどの新しい商品が続々誕生しています。その過程のなかで、長大が着眼的な役割を担っています。薬学部の中野教授が薬草の分析をしたり産学官連携戦略本部の中野武志教授がマーケティングの提案をするなど、専門知識を活かした強力な応援団が形成されているのです。「薬草と言えは島原」というくらい認知度を高めたいのですが、まずは地元からイベントの反応を見る限り、ようやく熱を帯びてきました。また、地元のホ

生産者と 製造業者、消費者を つなぐ接着剤的な役割 島原薬食育プロジェクト



地元の人間だけではなかなかここまでできませんでした

県立島原農業高等学校 内秀樹先生

長崎大学のいま! 第2回

これから長崎大学を目指す高校生に、一般的な大学案内ではなかなか伝えられない、各学部の現在のようすや最前線のトピックスを紹介するシリーズ。前号の工学部・教育学部に続き、今回は経済学部の登場です。

世界の大学と交流協定 留学先で自分を磨く

「その人たちは仲間になるかもしれない。あるいは交渉相手になるかもしれないし、ライバルになるかもしれない」——留学先で出会う同世代の若者たちは、将来そうなるかもしれない。経済学部では、これまでの学生の海外への派遣の取り組みを基に作成した教育プログラムが文部科学省の事業に採択されました。経済学部のグローバル戦略は、「GSR」というキーワードで語られます。岡田裕正経済学部長にお話を聞きました。

「GSRとは、Global Social Responsibilityの略です。例えば、環境問題には国境はないですね。

その解決をするとき、当事者となる国々にはさまざまな価値観の相違があるでしょう。その価値観の相違を越えた、相互に理解できるような解決策を導き出すような志を、私たちはGSRと考えています。そんな志と意欲を持った経済人にとって、相手の価値観の違いを知ることが大切でしょう。そのような人材を育成するとき、海外留学はかなり有効です。ともに学び、直接一対一で言葉をかわす。人柄を理解し合いながら最終的には信頼関係を築いていく過程を体験できます。いわゆる観光旅行とは明らかに違う、地に足のついた学びの場としてキャリア全体を考え、経済学部では、かなり以前から海外の大学との交流協定を築いているそうですね。

「はい、タイのチェンマイ大学との交流は平成十年に始まり、毎年一〜二名の学生を半年から一年派遣していましたし、中国の上海財經大会計学院には毎年夏休みを利用して十名程度の学生を派遣し、現地での成績評価を基に本学部で単位認定をするシステムを作っています。また、韓国の中央大学校、中国の西南財経大学、米国のカリフォルニア州立大学など、これまで交流している大学との交流協定

長崎大学のいま!

経済学部

グローバル! ビジネス人材を 育てたい



岡田裕正

経済学部長

おからだひろまさ
長崎大学経済学部教授。一九八八年九州大学経済学専攻修士後期課程単位取得満期退学。一九八九年四月に長崎大学経済学部にて着任。二〇一一年四月から現職。専門は財務会計論。

の締結を手始めに十五程度の大学との交流協定を目標として、学生の留学先の開拓を継続しています。一週間程度の短期でも海外に行けば学生はガラリと変わります。何しろ経済や経営の英語での授業はハードですし、コミュニケーションツールとしての英語力の必要性も痛感する。また、学生交流では、何より将来の仲間や競争相手になるであろう同じ世代の若者が、政治や経済の話でガンガンぶつけてきます。視点の違いにも気づいて、ずいぶん刺激になるようです。

国際イベントと 瓊林会のバックアップ

大学院経済学研究科が主催の国際カンファレンスもあると聞きました。

「アジア金融市場国際カンファレンスですね。毎年行っており、昨年十二月は九回目を福岡アクロスで行ったばかりです。世界の第一線で活躍するファイナンシャル分野の研究者、それも日本、中国や韓国だけでなく、年によって変わりますが、台湾、ア

経済学部の海外研修派遣先

(交渉中の大学を含む)

イギリス	ポーツマス大学 リージェント大学
イタリア	カフォスカリヴェネチア大学
オランダ	ライデン大学
フランス	ヨーロッパンビジネス スクール・パリ校
ベルギー	ゲント大学
アメリカ	カリフォルニア州立大学 サンバーナーディーノ校
中国	西南財経大学 上海財経大学
韓国	中央大学校
タイ	チェンマイ大学

現在の6コースを平成26年度から4コースに再編統合

経済と政策コース

グローバル経済コース

ファイナンスコース

経営と会計コース

※総合経済コース(夜間主コース)はそのまま

メリカ、カナダ、イギリス、フランスなどの研究者が参加し、研究報告と議論を展開するものです。昨年はイタリアからの参加者もいました。そこで院生が英語でプレゼンテーションすることもあります。このほか単発でのカンファレンスもたびたび行うこともあります。

クは本当にありがたくて、瓊林会というしっかりとした同窓会組織が仲立ちとなって、実務経験を豊かな方々を講師として迎え、自分の将来像を意識するためのカリキュラムもあります。就職活動に入る前に、先輩がたのアドバイスを受けられるのは貴重なチャンス。もっとも、彼らがその金言の重みを実感するのは、社会に出てからなのかもしれません。

カリキュラム改革で
新しいコース設定に
来年度からはコースが変わるとお聞きしました。

「カリキュラム改革で平成二十六年から六コースが四コースになります。時代に合った能力を養うための改革で、以前よりもさらにグローバルな視野の育成を意識したカリキュラムになります。海外はもとより、実際ここ長崎で就職するにしても、自社の商品を海外に売り出す、あるいは工場が海外に設けられるなど世界との接点は確実に増えています。グローバルな視野は、社会で必要とされる基礎力の一つでもあります。理念である、「時代の要請にあった実践的エコノミスト」が、こうして誕生するんですね。



昨年のイタリア短期研修のようす。

こちらはアメリカでの短期研修。

実践体験型の

PBL[®]学習

デイサービス
施設広報
イベント



経

経済学部での学びを実社会で活かすトレーニングとしてみたのが、この実践体験型のPBL[®]。長崎の企業や店舗の協力を得て、ゼミの学生グループがその企業や店舗の運営の企画段階から入り課題や問題を抽出して、それを解決するまでを学ばせてもらうという、大学と企業の共同作業。離島の風力発電関連企業や地元の大企業など協力してくださる企業は年々増えており、今年度はなんと六カ所の企業や店舗で十五グループが活動しています。例えば、あるデイサービス施設に入ったグループは、その施設のケアの質がとて高いのにも関わらずPRが不足していると感じ、一般向けの広報イベントを企画し



地元の
食材を使った
新メニュー

ました。また、あるグループは郊外の飲食店で地元の食材を使った新メニューを作ることに。どのプロジェクトも四月のマーケティング調査や関係者インタビューから始まり、企画立案や改善案など約十ヶ月かけて取り組みます。担当教員の一人、津留崎和義准教授は語ります。「このゼミを始めた当初は改善案をプレゼンテーションして終わり、つまり言うだけだったので、今年からは案を自分たちが実行、その結果をふまえて最終報告します。失敗も成功も糧にして、より現実的な提案をしよう。私のゼミでは九州大学など他大学とのコラボレーションも行って、さらに広がりをもたせています」。

※PBL
Problem Based Learningの略で
課題解決型学習。

初めての
就活名刺
「ハツメイシ」



ながさきマーケティング委員会の水彩画シリーズ「ながさき百景」を使った就活名刺「ハツメイシ」の企画も、今年度のあるグループの発案。そのなかの一人、鳥崎景子さんによれば「0次ES(エントリーシート)というキャッチフレーズもみんなで作りました。試作品を自分の就活で使ってみて、改良も重ねたんですよ。より効果的な自己PRをしようと、名刺を発注に来た学生と一いっしょにコピーを考え、練り上げます。そのかいあって地元紙でも大きく取り上げられました」。

私はこれまで多くのリーダーを経験してきました。その中で、メンバーひとりひとりを観察し、チーム全体を見渡す力を鍛えてきました。メンバーの能力を引き出し、それを如何に発揮できる役割を与えることで、チームに新しい風を吹かせます。(長崎太郎)



ながさき百景「風頭公園」
長崎マーケティング委員会は長崎の就活生を応援します

新しい風を
チームに吹かせます

長崎 太郎
Nagasaki Taro

長崎大学 経済学部
経済・経営情報コース
津留崎ゼミ 実践体験型PBL
サッカー部

Mail : taro.nagasaki@gmail.com
Phone : 090-1234-5678

経

経済学部の大きな特徴として、瓊林会というしっかりとした同窓会組織の存在があげられます。その瓊林会が全面協力し、卒業生によるオムニバス方式の講義が行われています。中央省庁職員、新聞社社員、酒造メーカーの支社長といった方々が、それぞれの現場のエピソードから改めて職業意識や学生のうちに身に付けておくべき知識や常識など、さまざまなテーマで講演します。担当の藤田渉教授(就職委員長)にお話を聞きました。

「学部一〇〇周年を機に、わが国超一流企業の社長・会長によるトップセミナーが行われたのがきっかけですが、キャリア教育として講義が単位化されたのは数年前です。我々教員が観念的に説明するより、実務経験のある卒業生が語る方が生々しい。一・二年生にとってはまだ就職は火星か木星の話のように遠いけれど、三年生になり実際に就活を始めると、その内容に全身が総毛立つ思いをすることもあるようです」。

この日は親和銀行の人事担当である山口大輔氏の講義。「入社後数年で、いきなり仕事に生きがいを感じることはまずない」「採用時、学生側はバイト経験をアピールするけれど、企業側はそのバイトを通じて何を学んだか、どう意識に反映されたかを見るのです」とリアルなコメントもビシバシ。しかしこのプログラムはその後が面白い！ 講義終了後、瓊林



講堂で行われたキャリアデザイン授業の一コマ。質問も活発に飛び交いました。下は座談会の様子。

経済学部 卒業生による キャリア授業

経済学部の著名な卒業生

宮脇雅俊さん	十八銀行頭取、瓊林会会長
福地茂雄さん	アサヒグループホールディングス相談役、NHK前会長
中村法道さん	長崎県知事
本村忠廣さん	長崎新聞社社長
佐藤洋二さん	双日社長
宮内憲悟さん	SMBCファイナンスサービス顧問
田中健一さん	岡三証券社長



各種ガイダンスと 手厚い就職活動支援

学

生にとっては、大学で何を学ぶかの次に、出口、つまり就職活動支援も重要な関心事です。教授推薦での応募機会が比較的多い理系に比べ、経済学部は自由応募ということもあり、就活支援が活発です。年間三十本以上の各種ガイダンス、複数のキャリアカウンセラーによる個別支援もあります。就職率は平成二十四年は九十五・六%とここ数年九十%台をキープしているのです。実は、本誌裏表紙にキャンパスの写真を連載している沖田夏樹さんもそのカウンセラーの一人。「ハローワークのようなカウンター形式の就活コーナーを売りにする大業もありますが、こちらではじっくり時間をかけた個別カウンセリングを重視します。バランスの良い学生や個性のあった学生など、個々の特性に合わせたアドバイスで、時間はかかっても、最終的に自分が納得のいく結果が得られます。個性に合わせたいろいろなチャンネルを用意することで、サポートしていきます」。



「答え」を押し付けるのではなく、学生自身が自分の問題を発見し、受け入れ、自分で課題に「応え」ていくプロセスを支援します」と沖田さん。

グローバル教育・学生支援棟本格始動

文教キャンパスの多機能センター

4F 文教スカイホール

講義、研究発表、サークル活動にもフル稼働。

これがクリッカー。手元で意思表示でき、集計やアンケートも簡単にできる最新機器です。



文

教キャンパスの中心、環境科学部棟のすぐ隣にできた新棟が、昨春秋、本格的に稼働しはじめました。このグローバル教育・学生支援棟、四階建てで各フロアでまったく異なる機能と役割をもっています。長崎大学のなかで特に必要とされているものがぎゅっと詰まった新棟なのです。その中身をご紹介します。

一階 学生支援センター

学生のためのサービスや情報提供が行われるこのフロア。生活、課外活動などの支援コーナー、学生なんでも相談室、やってみようでスク（P5に関連記事）、学生同士のサポートシステム「ピア・サポート」スペースなどが配置され、ワンストップで情報収集できます。授業が終わるとたくさんの学生が入りしています。

二階 リエゾン機構

これまで正門そばの建物にあった留学生センターと国際交流課が統合し、国際教育リエゾン機構が設置されました。留学生に関するさまざまな手続き、日本語学習のレッスンなども行われます。すぐそばの交流プラ

三階 アクティブラーニング教室

このフロアの特徴はアクティブラーニング仕様の教室があること。アクティブラーニングとは、学生参加型授業のことで、グループで話し合ったり、プレゼンテーションなどがしやすい環境が整っているのです。通常の教室は座学を想定した数人掛けの固定机で、学生は教員の方を向いています。しかし、ここでは一人一人の机で簡単に動かすことができるのでグループごとで集まりやすく、いろいろな授業形態が可能になります。しかも四方にホワイトボードがあり、プロジェクトも多いので、同時に複数のプレゼンテーションの練習ができます。学生の反応が即座に示されるクリッカーとよばれる手元操作の投票スリッチなど、最新機器もそろっており、学生が主体的に参加して、表現する授業が展開されます。もちろんWi-Fi仕様。長大では今年度中に全学無線LANが敷かれ、来年度の新生からパソコン必携となるので、こういった最新デジタル設備の整った教室は必要不可欠です。

四階 文教スカイホール

最上階には小規模ながら最新設備のホールが誕生しました。文教スカイホールと名付けられ、講義だけでなく研究発表や学生のサークル活動などに利用されています。席数は二六二席。モニター二台、大型ディスプレイ四台を完備し、別々の画面を流

すこともできます。高さのあるステージは客席から見やすく、長時間座っていても疲れにくいしっかりとしたシート。文教キャンパスは、これまで七〇〇名収容の中部講堂に利用が集中していたのですが、文教スカイホールの誕生で、人数に応じて使い分けることができるようになりました。

3F アクティブラーニング教室

グループでのプレゼンテーションなど学生参加型の授業がしやすくなりました。



教養教育におけるアクティブラーニングのようす。社会で活躍する人のインタビュー記事を素材し、グループごとにプレゼンをしてクリッカーで投票。表現力を身に付けていきます。このほか、机を取り払い、身体全体で表現する授業も行われています。

1F 学生支援センター

ふだんの生活の「困った」はここで解決。情報収集もできます。



ピア・サポートの一角は可愛い赤いシート。



2F 国際教育リエゾン機構

留学生が集うフリースペースも完備。日本人学生との距離もぐっと身近に。



ライデン大学と 学術交流協定を更新し 新たに学生交流の覚書を締結



昨年11月8日、長崎大学とライデン大学は学術交流協定を更新し、併せて医学分野における長崎大学医学部及び長崎大学大学院医歯薬学総合研究科(日本)とライデン大学メディカル・センター(オランダ)との間の学生交流に関する覚書並びに人文科学分野における長崎大学(日本)とライデン大学(オランダ)との間の学生交流に関する覚書を締結しました。これにより、ライデン大学と多文化社会学部の学生の相互派遣を行うことが可能になりました。今後オランダ特別コースの学生を中心に、ライデン大学へ数多くの学生が留学することが期待されます。また、ライデン大学から受け入れる学生との交流を通して、長崎大学での学生の学びがより有意義なものになるでしょう。

入試問題の出題例を ホームページで公開

多文化社会学部では入試の個別学力検査で実施する「批判的・論理的思考力テスト」の出題例を学部のホームページ上で公開しています。これは、このまったく新しい入試の実例を受験生に知らせるために作成したものです。このテストの正解はひとつではなく、出題者も予想していなかった新しい角度からの指摘にも高評価が与えられます。問題と解答例、採点の観点を確認することで、このテストの意図を理解することができるでしょう。

長崎大学ホームページ⇒左のコンテンツ「多文化社会学部出題例」をクリック⇒出題例・解答例・採点の観点をダウンロード

福岡や東京で 一般試験を実施

多文化社会学部では来年度の一般入試(前期日程 平成26年2月25日(火))に際して学外試験を実施します(グローバル社会コース、社会動態コース、共生文化コースの3コース)。東京会場は駿台予備学校お茶の水校2号館、福岡会場は代々木ゼミナール福岡校です。東京/福岡会場での受験を希望される方は、出願時に申請してください。なお、入試科目に面接のあるオランダ特別コースは、長崎会場でのみの受験となります。詳しくは多文化社会学部のホームページをご覧ください。

また、二〇〇七年の「ヤング・グローバルリーダー」一五〇人にも選ばれた高島宏平氏と源島福己教授による「夢中」を見つけて世界の舞台に立つ」では、七年後の東京オリンピックに向けて日本ならではの企画をたてよ、という課題に取り組みことに。弁護士であり国際NGOで活躍する土井香苗氏と広瀬訓教授の講座では、紛争地域で軍事利用をされている学校を子どもたちの手に取り戻すための方法について、アイデアを出し合います。また、バン格拉デシユのグラミン銀行初の日本人

コッなども伝授されました。その後、四つのグループに分かれ、少人数のゼミへ。ここでは、それぞれの講師の先生方を中心に、長崎大学の教員、応援に駆け付けた現役長大生がサポーターに入り、議論を深めていきます。基調講演を行った安河内氏と葉柳和則教授による「英語が苦手なキミを救う」とっておきの勉強法」では、英語による自己紹介の

その後、四つのグループに分かれ、少人数のゼミへ。ここでは、それぞれの講師の先生方を中心に、長崎大学の教員、応援に駆け付けた現役長大生がサポーターに入り、議論を深めていきます。基調講演を行った安河内氏と葉柳和則教授による「英語が苦手なキミを救う」とっておきの勉強法」では、英語による自己紹介の

その後、四つのグループに分かれ、少人数のゼミへ。ここでは、それぞれの講師の先生方を中心に、長崎大学の教員、応援に駆け付けた現役長大生がサポーターに入り、議論を深めていきます。基調講演を行った安河内氏と葉柳和則教授による「英語が苦手なキミを救う」とっておきの勉強法」では、英語による自己紹介の



Topics

多文化社会学部

高校生のためのゼミを 東京で開催

安河内先生によるキーノートスピーチ。「私のミッションは、この会場にいる人たち全員を外国に送り出すこと」と一言。会場には多文化社会学部の紹介パネルなども展示され、みなさん熱心に見入っていました。

講師のみなさんは、いずれも世界の最前線で活躍するフロントランナー。彼らと身近に接し、直接言葉を交わすことのできる機会とあって、どのゼミでも受講生の積極的な参加姿勢が印象的でした。最後に交流会が開催され、世界で働くことを前向きにとらえる高校生たちが先生方を交えて熱く語り合う姿が、会場のいたるところで見られました。

長崎大学が目指すグローバル人材育成の本質、その生の姿をしっかりと受け止めてもらえたようです。

コーディネーターとなった税所篤快氏と増田研准教授による講座では、バン格拉デシユ人スタッフに対して班ごとに英語でプレゼンテーションを行いました。

長崎大学 多文化社会学部 検索

長崎大学多文化社会学部設置準備室
TEL.095-819-2030 FAX.095-819-2235
ウェブhttp://www.hss.nagasaki-u.ac.jp
メールhss_info@ml.nagasaki-u.ac.jp

世界に紹介された 長崎のベニサシ

今回、山口敦子先生にご紹介いただくのは、紅色がひととき美しいヒメジです。

「ヒメジは、北海道から南シナ海にかけての水深三十五〜一六〇mの砂泥域に分布します。全長は最大でも十八cmの小さな魚で、体色は全体に赤く、尾鰭上葉に二〜四本の赤色帯が斜めに走るのが特徴です。そのため、長崎ではベニサシ(ベンサシ)と呼ばれる。また、キンタロウ(山口)、ヒメイチ(高知など)、ヒメジャコ(和歌山)など、地域によって様々な呼び名があります。主に底引き網漁でまとまって獲れる上に味がとても良いため、各地で食される魚として親しまれてきた証拠です」。

ヒメジとはベニサシのことなんです。

「ヒメジ属の属名を表す*Upeneus*とは、下唇に生えた毛・大きい髭という意味のギリシャ語に由来します。そして種小名には、かつては*bensasi*が使われていました。長崎でのベニサシという呼び名に因んだもので、シーボルトが長崎から持ち帰ったヒメジの標本に基づき、オランダ・ライデンの研究者らにより*Fanua Japonica*(日本動物誌)で初めて世界に向けて紹介されました。その後、

ます。人間では口にしかない味蕾が、ヒメジでは髭にもあるわけです」。

ヒゲの先で味がわかる！ 驚くべき特徴ですね。

お正月を彩る ベニサシの南蛮漬け

「フランス料理のrouget(ルージエ)といえば、高級食材として知られるヒメジの仲間のこと。色彩鮮やかで、目も舌も楽しませてくれるこの魚は、ブイヤベースの材料としても欠かせない食材で、ヨーロッパでは大変な人気があります。日本では、てんぷら、フライ、みそ漬け、干物、焼き物など、さまざまな調理に用いられ、ヒメジは各地の食文化の一端を担ってきました。例えば富山や新潟では、ヒメジの鱗と内臓を取ってから竹串に数匹刺して両面をこんがり炙り、甘めの味噌を塗って焼いた『沖の女郎(ヒメジ)の味噌田楽』また、高知ではヒメジの内臓や骨を残したままじっくり煮込み、辛子入りの甘醤油に柚子で香りづけをした『姫市(ヒメジ)の辛子煮』が郷土の味として知られています。そして長崎では『ベニサシの南蛮漬け』がお正月の食卓を彩ります。長崎が発祥の地とされる南蛮漬け。鎖国時代にヨーロッパ人から伝えられ、日本人の口に合うようにアレンジさ

分類学的検討を経て、種小名が*japonicus*に変更され現在に至ります。日本では美しい姫(比賣)に見立てられたヒメジですが、その外見をヤギに例えた“Goat fish”という英名を持ちます」。

確かに、ヒゲのついた顔つきは、ヤギに見えなくもないですね。

髭を使って 味見する

「『グラバー図譜』のヒメジをじっくりご覧下さい。美しい朱色の体色、背鰭や尾鰭にある縞模様に加え、下あごの先端にある一対の黄色い髭がはつきりと描かれています。この髭は海の流れに従い、ただゆらゆらと揺れているわけではなく、ヒメジは鮮やかな黄色い髭を砂のなかに差し込むと細やかに動かし、まるで指を動かしているかのように餌を探すことができます。こうして髭を使い、多毛類や甲殻類などの小動物を捕食しています。ヒメジの髭は一種の感覚器。そこには味蕾とよばれる器官が多数あります。最新の研究によれば、ヒメジでは、味蕾で得た情報が送られる脳の部分(顔面葉)が特に大きい上に、人間のように層状でシワくちゃの構造となつていることが明らかにされてい

れました。それまでは、魚を油で揚げるとい調理法はなかったようです。軽く干したベニサシを素揚げし、三杯酢に漬け込みます。油で揚げて酢に漬けることにより、日持ちも良く、骨まで軟らかく、栄養価も高くなります。ベニサシの美しい朱色は揚げてもなお華やかで、ヒゲは長寿を意味する縁起物として、お正月に相応しい一品となったのでしょう。ヒメジは冬に旬を迎えます。淡泊だけど、深い旨みがあって優しい味わいのヒメジの南蛮漬けは絶品。是非とも冬に召し上がっていただきたい魚です」。

年末ともなると、このベニサシを日に干すのが長崎の冬の風物詩。冬じゅう食べられるのなら、ほかの料理法も試してみる価値大ですね。



Glover Atlas

ヒメジ

Upeneus japonicus
画家 小田紫星

グラバー図譜
日本西部及び南部魚類図譜

Fishes of Southern
& Western Japan



解説 山口敦子

長崎大学水産・環境科学
総合研究科教授

Yamaguchi Atsuko

東京大学大学院農学生命科学研究科博士課程修了。2000年から長崎大学。専門はエイやサメなど魚類学と水産資源学の研究。主な著書に「干潟の海に生きる魚たちー有明海の豊かさと危機」(東海大学出版)など。

長崎大学附属図書館のホームページでもご覧いただけます。

<http://oldphoto.lb.nagasaki-u.ac.jp/GloverAtlas/>

教育と研究を通して世界に通用する人材を育成することだけでなく、地域社会に貢献することも、現在の大学に求められる大切な役割の一つです。特集「地域で活かされる長崎大学の「知」」では、長崎大学の地域貢献の具体例をいくつか紹介しました。文化財の保存や学生主体のボランティア活動、インフラの維持管理を通じた危険の未然予防に新製品の開発と、長崎大学の取り組みは多岐にわたります。シリーズ「長崎大学のいま!」では「経済学部」の今を紹介しました。今年4月に開設する「多文化社会学部」の記事とあわせてご覧いただければ、長崎大学が目指すグローバル人材育成の本質が伝わるのではないかと思います。今回の「グラバー図譜」で紹介するのは「ヒメジ」です。長崎では「ベニサン」として知られ、お正月の料理でおなじみのこの魚。紅色の美しい姿といい、新年最初の号にぴったりのお魚です。

(池田幸恵)

[編集・発行] Choho企画編集会議

編集長

原田 哲夫 広報戦略本部副部長 工学研究科 教授

副編集長

池田 幸恵 水産・環境科学総合研究科 准教授

編集委員

- 堀内 伊吹 副学長、教育学部 教授
吉田 高文 経済学部 教授
相楽 隆正 工学研究科 教授
松下 吉樹 水産・環境科学総合研究科 教授
小林 信之 歯学部総合研究科 教授
堀尾 政博 熱帯医学研究所 教授
佐々木 均 病院 教授
延田 恵 やってみゅーでスクマネージャー
深尾 典男 副学長、広報戦略本部部長 教授
西村 司郎 広報戦略本部 専門職員
石田 亮二 広報戦略本部 主査
高藏 祐亮 広報戦略本部
田村 匠平 広報戦略本部

編集 川良 真理
デザイン 三浦 秀樹
企画編集アドバイザー 浅野 眞

TEL.095-819-2007
FAX.095-819-2156

(E-mail) www_admin@ml.nagasaki-u.ac.jp

[発行日]2014年1月1日

プレゼントクイズ

長崎大学 通 クイズ

長崎大学に関する知る人ぞ知る新事実が続々登場するクイズです。さあ、あなたはどれが本当だと思いますか?

長崎大学附属図書館には価値のある貴重資料が多く所蔵されています。なかでも経済学部分館の武藤文庫には、教科書や長崎のガイドブックによく登場するおなじみのものが所蔵されています。さてそれはどれでしょう?

ヒント:武藤展示室にも展示されています。

坂本龍馬の肖像写真



1

川原慶賀の出島図



2

原爆投下写真



3

解答は挟み込みのハガキにご記入のうえ、郵送してください(アンケート内容もしっかりご記入ください)。正解者の中から抽選で5名の方に長崎県産品をプレゼント!

前号の答え

Q 工学部1号館の入口あたりにある工学部ならではの装置は?

③ タッチパネル

工学部は、教職員の数も多く建物も分かれています。そこで1号館入口に設置された案内用タッチパネルが大活躍! 教職員の名前を入力するだけで案内図と施設や部屋が示され、大変便利なものです。製作チームの一員、工学研究科技術職員の高尾慶蔵さんによれば「平成20年から試行錯誤し改良を重ねてきました。今では苦勞のかいあって更新処理もスムーズですよ」。外部訪問者はもちろん、講義室の検索など学生にも大いに利用されています。



今回のプレゼント

地場産の野菜やフルーツが調味料になりました。長崎県産の生姜を使ったジンジャーはちみつシロップは希釈性で、紅茶や炭酸水で割ればさっぱり味のドリンクに。第44回長崎県産品新作展「農産加工・酒・飲料品部門」の最優秀賞を受賞しています。そのほか、大村産玉ねぎをたっぷり使ったドレッシングや福重の梨入り焼肉のたれなど、一工夫した調味料で、いつもの食材がぐっと引き立ちます。今回は、正解者のなかから抽選で5名にプレゼント。



いちごの食感が残るように仕上げたいちごジャムや角切り人参のジャムは、パンだけでなくお菓子やヨーグルトのアクセントにもぴったり。6つのアイテムを「シュシュオリジナル調味料セット」(2,770円)としてお届けします。

提供/おむら夢ファームシュシュ TEL.0957-55-5288

長崎県物産館 TEL.095-821-6580 http://www.e-nagasaki.com/contents/n_bussan/

Information

入学試験情報

大学入試センター試験

Table with 2 columns: 試験日, 1月18日(土)、19日(日)

長崎大学一般入試

Table with 4 columns: 区分, 出願期間, 試験日, 合格者発表

※医学部医学科は26日(水)も実施

詳しくはWebで http://www.nagasaki-u.ac.jp/nyugaku/admission/index.html

卒業式

日時 3月25日(火)10時~
場所 長崎ブリックホール



入学式

日時 4月2日(水)10時~
場所 長崎ブリックホール



申込方法や最新情報など、詳しくは長崎大学のホームページをご覧ください。

http://www.nagasaki-u.ac.jp/index.html

二重らせん構造を発見し、ノーベル賞を受賞した ジェームズ・ワトソン博士が長崎大学で講演しました



※この日の講演会の内容は、長崎大学ホームページからご覧頂けます。

長崎大学では、昨年11月26日アメリカの研究者ジェームズ・ワトソン博士を招いて講演会を行いました。ワトソン博士は、クリック博士とともに若干24歳でDNAの二重らせん構造を発見、1962年にノーベル生理学・医学賞を受賞。その後も、ヒトゲノム計画の責任者としてヒトの全ゲノムの解読プロジェクトを推進するなど精力的に研究活動を進めてきた方です。今回は理化学研究所の利根川進教授と片峰茂長崎大学長の招きで来日しました。長崎大学中部講堂での講演は、80歳代とは思えない闊達な語り口で「DNA二重らせん構造発見から60年」と題しお話をされました。当日は英語による講演で、学生はもちろん、多くの教職員も聴講しました。



学長表敬後には医学部坂本キャンパスでの植樹式に参加するなど、長崎大学で一日を過ごされました。